

— 気象講演会雑感 —

平成5年度北海道支部気象講演会

札幌管区气象台 澤田可洋

(現 仙台管区气象台)

6月の理事会で、今年は気象講演会を開催することになる、従来から地方で開催してきているが講演担当理事としての準備はいかが、とのご質問。準備どころか計画すら手持ちなし。アタフタと各理事、各幹事にご意見などをいただきはじめた（ご迷惑かけました）。

時期は秋～初冬、規模は聴衆200人、気象官署に開催の可能性を打診など、原案のまたその下案をまとめだした。アタリをつけた官署では他に講演会を開く予定がある、などでOKがとれない。地方開催が多い他の学会との共催（というよりオンブ）も日程などによりギブアップ。こうして地方での開催を早々と断念した。

さて、札幌での開催となると省力を図るため（手抜きではナイ）カンパ方式はやめて手弁当方式でやれないか、テーマは昨冬はツルツル路面が話題になったことでもあり冬を控えて雪にしぼろう、講師は一般の人が疲れないう4人より3人が良かろう、夕飯の準備に帰れるように夕方で終わる、市やマスコミの名義協賛をもらう、予算はできるだけ控えめに、との原案が各理事、各幹事のご意見などにより8月末になってほぼ定まってきた。

秋の学会ラッシュの合間と会場が空いている日により開催日は自ずから決まり、9月になって3人の講師にもお引受けいただき、各講演の内容も固まってきた。協賛の各機関を回ってポスターやビラを配布し、広報もお願いし、会場の大きなビラは气象台の書の腕のある人（案外いるものである）に依頼し、受付には男性だけではイメージが固い（悪い）など、かなり具体的になってきた。ポスターは若い人のセンスあふれるイラスト入りであったが、色をもっと欲しいところである。だが、これも緊縮財政にしては某担当官の値切りの効果も加わり見事なできばえであった（と言っていたきたい）。

こうして公になった気象講演会の内容は次のとおりである。

日 時 平成5年11月11日 13時30分～16時20分  
会 場 かでの2.7大会議室  
テーマ 札幌の冬の気象 —冬に備えて賢くなろう—  
講師、講演題目 札幌管区气象台 久保 一夫氏  
北海道の冬の気象特性

北海道大学理学部 菊池 勝弘氏

札幌周辺の雪の降り方積り方

日本気象協会北海道本部 竹内 政夫氏

冬の道路交通

さて、何と言っても観客動員数が不安である。今回は防災機関や学校などによる聴衆の“組織動員”がないのでマスコミや自治体の広報に頼るよりない。目標の8割で成功、いや7割で、とスレッシュホールドを甘くしていよいよ当日。お客様が早々と集まったのに会場ではまだ諸準備の最中。それでも定刻に開催となった。進行役として会場を見てもかなりの入りであり、後で聞くと180人という。9割、これは大成功である、とホッ。

振り返って見ると、会場のマイクに若干不手際があったが、リハーサルを事前にする時間があれば問題は無かったのにと、時間厳守でより会場に入れなかった方式（借料が格段に安価）が悔やまれる。各講師からは、気象現象、雪の状況、道路交通など札幌市民には関心の深い内容でお話いただき、参加者の質疑も熱心かつなごやかで知識欲を満たしたのではなかろうか。講師の皆さま、有難うございました。



なお、担当としては聴衆が少しでも増えればと思い知人に参加を呼び掛けたところ、当日は6人来てくれた（その動員の内容は今年度最後の理事会の後の懇談会でご披露してある）。そして菊池先生も奥様はじめ近所の方々に来ていただいたとのことで、講師としてのご苦勞のほかに、参加者数の目標9割達成にもご協力いただいた。ちなみに、私の動員者は大変に勉強になったと言っており、一般市民への気象知識の普及啓蒙という任務に一役買えたと言自己満足している。

一時はどうなることかと思ったが、計画の段階から種々検討に参加していただいた理事、幹事の方々、準備と進行に勞を惜しまなかった气象台、気象協会、大学の皆さん、お陰様でこの大役をこなすことができました。心からお礼申し上げます。最後になりましたが、4月からは仙台で勤務しています。お世話になりました。有難うございました。